

東淀川駅(JR京都線)

「長柄の人柱」周辺を歩く

淡路駅(阪急京都線・千里線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.005

JR東淀川駅

①長柄の人柱巖氏碑

長柄橋の架橋は、度重なる失敗を繰り返す非常な難工事でした。垂水の長者・巖氏は、自ら長柄橋の人柱となることを申し出て、生きながら橋柱の下深く埋められました。巖氏が人柱となるや、橋は難なく架設され、大水が出ても流されることがなくなりました。推古天皇の治世613年のことです。父の死後、悲しみのあまり物言えなくなった娘・照日は、心まで閉ざしてしまい、ついに嫁ぎ先から里方へ帰ることに。長柄橋を渡って垂水まで来た際、1羽のキジが鳴き、それを夫が弓で射止めました。奥の中から見ていた照日は「ものいわじ 父は長柄の橋柱 鳴かずばキジも 射られざらまし」と詠じ、泣き入ったと伝えられています。



②大願寺

巖氏の功績は朝廷にまで伝えられ、推古天皇の勅命により、巖氏の冥福と長柄橋の守護を目的とする大願寺が建立されました。

③須賀神社跡

西淡路はかつて国次町という地名でしたが、これは刀工・来国次から取ったものです。来一族

が南北朝の戦乱を避けて京から淡路に移り住んだ際、一族の鎮守として創建されたのが須賀神社です。須賀神社は、明治43年(1910)に中島惣社に合祀されましたが、大阪府天然記念物に指定された樹齢600年といわれる大楠が名残を伝えています。



④高射砲陣地跡

第二次世界大戦中に旧日本陸軍が建設した高射砲陣地・国次陣地がありました。当初は指揮所

と砲座6基がありましたが、現在は砲座4基のみが現存しています。ここまで残っているのは日本国内でもめずらしいそうです。

⑤中島大水道顕彰碑

北中島22カ村の庄屋や村民が、度重なる水害と水はけの悪さに耐えかね、延宝2～4年(1674～76)にかけて、何度も江戸幕府に対して公儀普請による水路開削を請願しましたが、幕府は多額の工事費出費を嫌がり、百姓普請を前提に水道開削を許可しました。庄屋たちは22カ村の村民を説得して資金2千両を募り、延宝6年(1678)の春にわずか50日間で伝法・申新田に至る9.5キロの用水路を貫通させました。この中島大水道は淀川改修期の明治32年(1899)まで220余年もの間、その機能を果たし続けました。

JR東淀川駅

